

研究分野のキーワード：視覚障害心理学，弱視教育，障害学生支援，福祉教育

研究紹介

私は、障害のある人となない人の対人関係について広く研究を行っていますが、現在は、とりわけ、2つのテーマに力を注いでいます。

(1) 障害開示の研究

障害開示を皆さんの身近な言葉で表現すると、「カミングアウト」だと思います。学校やクラスの仲間には知られていないこと、知られたくない秘密を明かすというのはとても勇気が要りますね。ところで、外見では障害者だということがわかりにくい人（弱視者、聴覚障害者、発達障害者等）の多くは、周囲から障害者だということに気づいてもらえません。しかし、障害があるために、学校や職場では困難を抱え、支援が必要な人たちです。そのような人の多くは、自分の障害を開示した方がよいとわかっているにもかかわらず、それを開示した後、周囲がどのように反応するのか心配に思い、開示に後ろ向きです。

そこで、私は、どのように障害開示をすれば、周囲の健常者から理解や支援が得やすくなるのかという方略を研究しています。具体的に言えば、大学に入って、同級生や教員に自分の障害を伝えるためには、どのような内容を、どのような手段で、どのような場所で伝えればよいかといったことがわかれば、見た目では障害の状態がわかりにくい障害学生も「安心して障害開示できるようになるのでは？」という発想です。

開示する内容の観点から少し研究成果を紹介すると、私の研究では、障害は隠すよりは、どのような内容であっても正直に明かした方がよいという結果、また、初対面の人に障害を開示するのであれば「工夫次第で障害のない人と一緒に活動できる」というメッセージを発信することが対人関係には効果的だという結果を、大規模なアンケート調査により明らかにしました。このような情報を当事者たちにフィードバックして、彼らが周囲の健常者と関係を築けるよう支援することが障害開示研究を通じてやっていることです。

(2) 福祉教育

皆さんは心のバリアという言葉を知っていますか？心のバリアとは、一般に、社会の障害者に対する無理解、無関心、偏見、差別等がありますが、身近なところでは、障害者とうまく接したらわからないという戸惑い、抵抗感、遠慮意識があります。しかし、心のバリアは、健常者だけの問題ではありません。困っていてもうまく助けを求められずに戸惑う障害者、どうせ健常者には理解してもらえないと決めつけてしまう障害者等、心のバリアは障害のある人となない人の相互の問題です。私はこれを解決するために、障害者と健常者の交流イベント等を実践活動でやっています。また、この活動の効果を検証し毎年学会で発表しています。※私の取り組みについて興味・関心のある方、質問をしたい方は遠慮なくお問い合わせください。問い合わせ先：aiba@aecc.aichi-edu.ac.jp